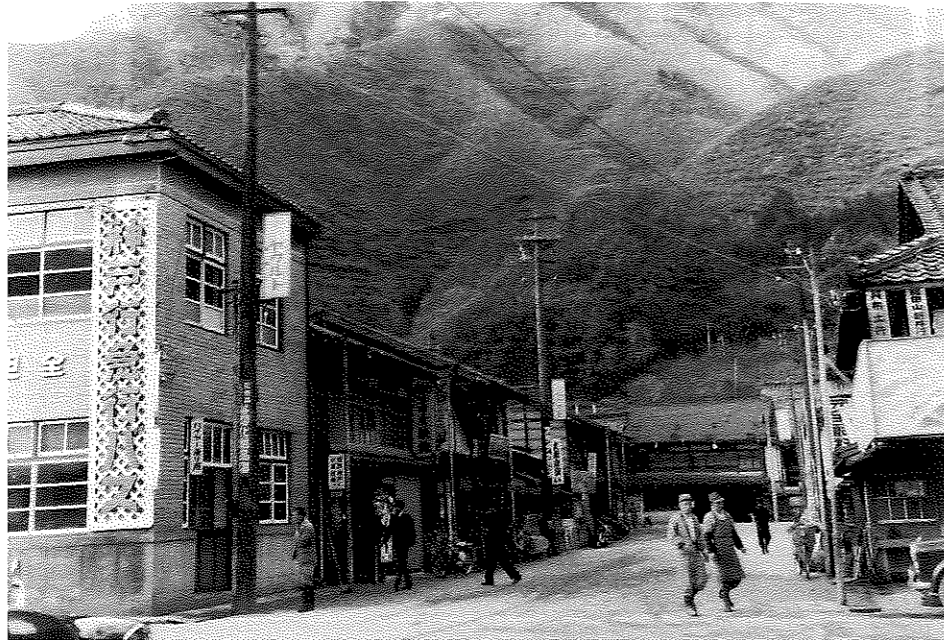


◀生野・新橋の架橋 生野は古くから鉱山町として知られ、江戸時代には国内有数の銀の産出地として栄えた。古くから人びとの往来が絶えず、街の中央に架けられたこの新橋も多くの人が行き来した。当時、コンクリート造の橋はこの地方では珍しかったが、近年、豪雨によって流され、写真の面影も無くなってしまった。〈朝来市・昭和9年〉

特色
3

わかりやすい解説や
身近な話題が満載！

▶今も面影を残す八鹿駅前 明治41年に和田山駅からの延伸により開業した八鹿駅。京都から下関まで、日本海側を結ぶ国鉄路線の結節点として、モータリゼーション到来前夜のこの頃は、特に人びとの生活にはなくてはならない駅であった。〈養父市・昭和30年代〉



特色

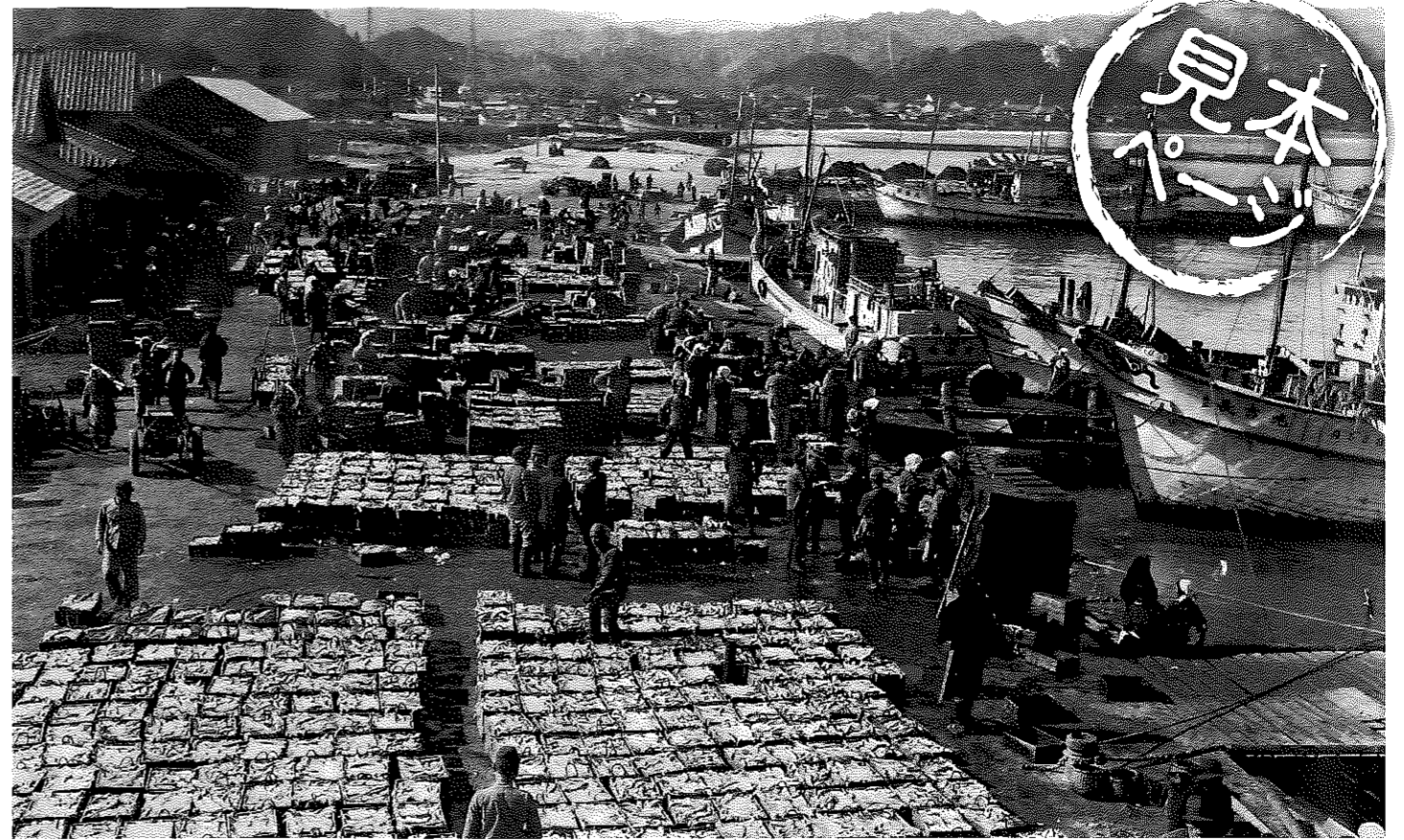
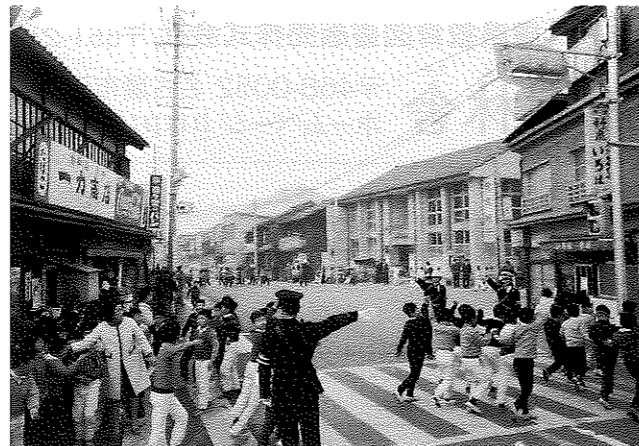
4

ご家族、ご近所、ご友人
みなさまで楽しめる！



▲諸寄小学校の校庭で魚を干す 鳥取県境の浜坂は、中国地方との交流の玄関口として、また漁港としても重要な役割を担った。小学校の校庭いっぱい干された魚。いかにも漁師町といった趣で、のどかな風景をとらえた一枚である。〈新温泉町・昭和34年〉

▼江原駅前の信号機点灯式 高度経済成長とともに勃興したマイカーブーム。激増する自動車の交通量に比例し悲惨な交通事故が多発、「交通戦争」と呼ばれるようになった。全国的に歩行者の安全確保の声が高まるなか、江原駅前の交差点に信号機が設置された際の一枚。国道を跨ぐこの道路も近隣の学校の児童、生徒が安心して行き来できるものとなった。〈豊岡市・昭和40年〉



見本
ページ

▲香住漁港の水揚げ風景 日本海の貿易や漁業で栄えた香住は、北海道から九州、果ては大坂までを往く北前船の寄港地としても繁栄した。香住漁港は、現在でも、但馬最大の漁港として地域漁業の中心地となっている。大漁旗を高らかになびかせ、港に入ってくる漁師たちの笑顔が目に見え、港に入ってくる漁師たちの笑顔が目に見え。〈香美町・昭和初期〉

特色

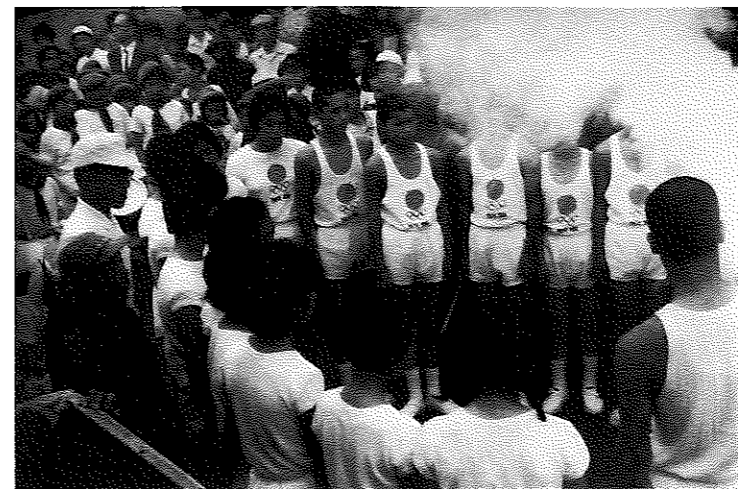
1

懐かしいオリジナル写真
約600点を厳選収録！

特色

2

胸が熱くなる思い出の
情景がよみがえる！



▲和田山を通る東京オリンピック聖火リレー 日本中がテレビにくぎ付けとなった東京オリンピック。その聖火は、昭和39年8月21日にギリシャのオリンピアを出発、平和のための聖火リレーとして第二次大戦の激戦地を経由して日本に上陸し、全国を通るルートで10月10日に東京・国立競技場の聖火台に到着した。〈朝来市・昭和39年〉

▼幻の出石鉄道 昭和4年、住民有志の出資により開通した出石鉄道。しかし赤字経営が続き、同9年の室戸台風襲撃時には鶴岡橋梁が流失したため、急遽田山川の川岸に仮設の駅を設け、乗客を船で渡すという奇策で運行を続けたこともあった。戦時中には不要不急線として路線が撤去、戦後に復活運動も起こったが実らず同45年に正式に廃止となり、出石鉄道は「幻の鉄道」となった。〈豊岡市・昭和7年〉

